

[RICOH Printing Solution] IPSiO シリーズ導入事例

最先端の医療現場でカラーレーザープリンター複合機「SP C221SF」が大活躍!

OA機器の最適配置で、医療品質を向上させ、
患者様の満足度アップを実現。

お客様の取り組み／導入の背景

最先端の機器を備えた診療施設で、
常に患者様本位の最良のがん医療を提供。

四国地方のがん診療連携の拠点病院として、“がん医療水準の向上”を担う四国がんセンター様。その理念は「患者様の立場にたつて人格を尊重し、信頼と安全に心がけた最良のがん医療を提供すること」(副院長・栗田様)。平成18年に最新医療機器を備えた新病院に移転し、先進的な取り組みを続けている。その一例が『がん相談支援・情報センター』。「患者様やご家族の不安な気持ちを落ち着かせ、最良の治療へ導くために看護師、ソーシャルワーカー、心理療法士などが、難しい医療情報を噛み砕いて患者様に伝えたり、患者様の気持ちを医師に伝えたりしています」(栗田様)。また『緩和ケア病棟』では医師と看護師がディスカッションし、地域の開業医とも連携しながら、患者様の不安を取り除く緩和ケア



独立行政法人国立病院機構
四国がんセンター 副院長 栗田 啓様

を進めている。これらを十分に発揮できるよう、同センターでは、チーム体制をとっており、診断から手術、入院退院などの情報を共有し適切に対応することで、患者様の安心につなげている。その他、イントラネットで連携したがんセンターへの情報発信、臨床研究・治験にも力を注いでいる。

課題

医療サービスの質を高めるためには、
帳票印刷の環境改善も必要。

■大事な情報を患者様に伝えるための苦勞

看護部門では検査の説明・注意点、お薬情報や投薬計画などを、分かりやすく正確に伝える必要がある。しかしプリンターやコピー機はモノクロが多く、帳票は強調したい部分が十分に伝わっていなかった。

■多忙な医療業務を滞らせる印刷環境への不安

カラー印刷が必要な際にはインクジェットプリンターを使用していたが、印刷スピードが遅く、水で文字が滲んだりして、十分な性能ではなかった。また頻繁なインク交換やインク漏れなどで、業務を滞らせていた。

■機器の増加に伴う設置スペースやコストの問題

プリンターやコピー機等のOA機器が増え、手狭な医療現場がますます煩雑に。また機器が増えれば、消耗品の在庫や発注等の管理負荷もかかり、保守費用もかさんでいた。

こうした課題を解決し、より質の高い医療を提供するため、同センターでは、プリンター複合機に統合していくことを計画。限られたスペースに設置できる高性能な機種を検討した結果、コンパクトさ、印刷速度や高画質、メンテナンスのしやすさなどでリコーを選定し、10台のカラーレーザープリンター複合機『SP C221SF』を導入した。そのなかで看護部と薬剤部における課題解決についてご紹介する。

解決①**『看護部門』では、高画質と速さ、使いやすさで印刷業務改善に貢献。**

24時間休むことのない看護の最前線では、インクジェットプリンターを使用していたデスクに、『SP C221SF』をそのまま設置し活用している。『SP C221SF』は本体の高さが47.6cmと低く、低い位置での機能設定操作や、コピーをとる際原稿セットがしやすく、誰もが快適に利用できる。「レーザーは普通紙でカラー帳票や写真画像をキレイに印刷できます。それに、とにかく印刷が速いのがうれしいですね」（看護師・野田様）。例えば、「内視鏡検査のオリエンテーション用紙」は、注意点を赤字で表記し、イラストを使うことで患者様がより理解しやすくなり、必要な際に即時に印刷できる高い生産性を持ったカラープリンター機能を役立てている。また「患者様のまわりにはお茶や花瓶などがあるので、帳票は濡れても画像が滲まないものもいい。レーザーは、その点も安心です」（野田様）と画像品質にも満足していただいている。さらに『SP C221SF』はADF（自動原稿送り装置）が標準装備されており、複数ページにわたる紙原稿も1度にまとめてセットしてコピー可能。臨床や診察で病棟を回った医師や服薬指導を行った薬剤師が、複数の原稿をまとめてカラーコピーする際に重宝している。

解決②**『薬剤部門』では、帳票のカラー化で、業務の品質向上と効率アップを実現。**

薬剤部門では、業務の品質向上と効率アップを実現するために、カラープリンター / コピー機能を備えた『SP C221SF』に入れ替えた。「患者様向け資料（治療レジメン）」では「抗がん剤の名前や投与の日程、注意点など、患者様にしっかり訴えるべき情報は、カラーで表記したほうが強調できます」（副薬剤科長・松久様）。なかでも「治療レジメン」は、1度に3枚印刷するため、『SP C221SF』の連続20枚/分の高速

印刷が業務効率を上げている。また「お薬情報」では、お薬の写真、特長や副作用などをカラーで強調して印刷。視覚的に分かりやすく情報を伝えることができ、誤飲などの医療過誤防止に貢献している。さらに「今までモノクロの帳票に、診察用のお薬のカラー写真を切り貼りしていた手間も一切なくなりました」（松久様）。従来、カラーのプリントやコピーが必要な際には、離れた場所にある共用を使用。しかし、自部門で簡単にカラーの使用が可能になったことで、業務の生産性を高め、長い時間患者様を待たせることもなくなった。「カラー・モノクロのプリンター、カラーコピーなどマルチに使い、今では12名の職員の仕事を身近にある1台がまとめて引き受けてくれています」（松久様）。

今後の展望**患者様の満足度向上を目指し、より質の高いがん診療の環境を整備していく。**

国立病院機構では、患者様が自分にあつた治療法を選択できるように、分かりやすい説明と相談しやすい環境づくりを推進している。四国がんセンター様は、それを高いレベルで実践。小型カラーレーザープリンター複合機『SP C221SF』も、患者様の満足度向上に貢献している。同センターでは、古くなった機器は、プリンター複合機を含めて最適に配置を行っていく予定だ。高性能なカラープリンターやカラーコピー、スキャナー機能、ファクス機能を1台に集約してスペースを有効活用できるだけでなく、将来の電子カルテ導入時には、紹介状や同意書、紙カルテなど帳票を取り込む際には、スキャナー機能が役立つであろう。今後については、「いま、予想以上に多くの患者様が来院し化学療法を受ける方向に変わりつつあり、施設が手狭になってきています。ですから、ニーズに応えより満足していただける治療が行えるよう、施設の増築を計画中しています」（栗田様）と将来の展望をお話していただいた。最良のがん医療を提供するため、様々な取り組みを続ける四国がんセンター様。私たちリコーも、ますます情報化が進む医療機関のニーズを的確に把握し、より質の高い業務改善提案をしていく。

お客様の声

24時間多忙な看護部門では、誰もが簡単にメンテナンスでき、安定稼働しているリコーのプリンター複合機に満足。

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 看護師 野田様

画質の美しさと印刷の速さに加え、日常的なメンテナンスのしやすさにも満足しています。マシン前から消耗品の交換等の全ての作業が行えるので、煩雑で手狭なスタッフステーションへの設置でも無理がなく、常に入出力して業務を行っている多くの看護師・医師など誰もが簡単に操作できます。また、インクジェットタイプと違い、インク目詰まりやヘッド故障のトラブルもなく、安定して使えることが何よりも嬉しいですね。

お客様プロフィール

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

- 創設：昭和20年
- 病床数：405床
- 外来患者数：約570人/日
- 診療科数：17科
- 所在地：愛媛県松山市南梅本町甲160番
- 医師：81名 / 看護師：355名 / その他スタッフ：584名
- URL：http://www.shikoku-cc.go.jp
- 導入機器：IPSiO SP C221SF



株式会社リコー 東京都中央区銀座8-13-1 リコービル 〒104-8222

<http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/>

お客様相談センター

リコー製品に関するお問い合わせは「お客様相談センター」で承っております。フリーダイヤルでお気軽にどうぞ。

FreeDial 0120-000-475

●受付時間：平日（月～金）9時～18時 / 土曜日9時～12時、13時～17時（日、祝祭日、弊社休業日を除く）

*通話料は無料です。

*音声ガイダンスに従い製品別の番号をプッシュトーンでお知らせください。

*トーン番号が出せない電話機でお掛けの場合は、そのまましばらくお待ちいただきますとオペレーターに接続します。

*お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただきます。

■リコーにご提供いただいたお客様の個人情報の取り扱い方針については、当社ホームページでご確認いただけます。

本情報は、2009年12月10日現在のものです。

●お問い合わせ・ご用命は…